



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Yes, we can change 「私たちは変えられる」
“Action” 「アクション」
「為せば、成る」 No challenge No fruits
「未来はそれに備える人のものである」
「入りたいな」と思われる楽しい会に

2019年1月号
NO 508

ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不誠実な者は、大きな事にも不誠実である。

ルカによる福音書16章10節

公式訪問でお会いします あずさ部長・広瀬 健



東京西クラブの皆様、こんにちは。あずさ部でチャーター43年の歴史のある貴クラブ訪問を楽しみにしています。

昨年度のあずさ部三役、大野さん、神谷さん、鳥越さん、ご苦労様でした。引継ぎに関して、多くの教えを受け、感謝を申し上げます。

本年度部長を引き受けあずさ部の仕事の多さに戸惑いびっくりしております。

私が所属する甲府21クラブの経緯、現状を書かせていただきます。私が2014末に入会した時は会員17人のクラブでした。平均年齢は70歳以上、このままだと自然消滅を目の当たりに感じ、新メンバーを増やす方法を考え実行に移しました。

最初に友人、仕事の付き合いなどから、名前をピックアップし、イベント（バザー、チャリティラ

ン、ベビーカーコンサート、農作業、キャンプ活動など）に誘ってみました。ワイズメンズクラブに入会しないかと聞かれて入会する方は殆どいませんが、「イベントをやるのに人が足りない。たまには良いことしないか」と誘うと2人に1人は参加します。ここからが勝負！

ワイズメンズへ入会とか、年会費は〇〇なんてことは最初に言わない。イベントに参加し、子ども達、お年寄りに寄り添ってみて、どう？と聞くと、「新鮮だ」「感動した」「教えられた」と答えが返ってきます。

心を揺さぶられると、人は行動を起こしたくなることを感じました。甲府21クラブは、会員数30人となり、平均年齢も60歳前半まで若返りました。

あずさ部の11クラブ訪問の大部分は東京西クラブです。ぜひ1

人でも会員を増やし、貴クラブが繁栄することを心から祈っております。

当日、前に立って、諸先輩方に話すことよりも、皆様とぜひ意見交換をしたいと考えております。

2月9日、あずさ部評議会

本年度第2回あずさ部評議会が2月9日13:00~17:00、高尾わくわくビレッジにおいて開かれます。

今回は、東京八王子クラブがホスト。評議会に、役員以外も集うのがあずさ部創立以来の良き伝統です。

クラブ役員

会長 本川 悦子
副会長 高嶋美知子
書記 石井 元子
会計 河原崎和美
担当主事 木川 拓

12月の記録		ニコニコ	7,520円
在籍者数 15人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド	0円
出席者数 11人	コメント 0人	ファンド残高	151,534円
メーカーキャップ 1人	ビジター 2人	ホテル校ファンド	0円
出席率 86%	ゲスト 0人	ホテル校残高	58,399円
前月修正 -	出席者合計 14人	WHO参加者	31人

1月例会のご案内

今月の強調テーマ：IBC/DBC

お正月になると、日本人は、和に帰ります。東京多摩みなみクラブの会長・深尾香子さんをお招きして、茶の湯の伝統に新しい息吹をもたらすお話をうかがいます。初釜、“東京西流”茶懐石を試みます。

ぜひ、友人、知人に声をかけて、楽しい会にしましょう。

日時：1月17日(木) 18:45~21:00

会場：ウエルファーム杉並 4階集会室

(杉並区天沼3-19-16 TEL3202-7330)

会費：1,500円

担当：C班(高嶋、鳥越、吉田)

HAPPY BIRTHDAY

7日 石井 信雄 15日 小山多喜子

19日 石井 元子

開会点鐘

ワイズソング

聖書朗読・感謝

挨拶・ゲスト&ビジター紹介

部長メッセージ

会食

卓話

「伝統は革新あってこそ

～目からウロコの茶の湯レッスン」

東京多摩みなみクラブ会長

江戸千家蓮華庵・景福庵名倉宗香先生

深尾香子さん

諸報告

YMCA 報告

ハッピーバースデー

ニコニコ

閉会点鐘

受付 鳥越 成代

司会 高嶋美知子

会長 本川 悦子

一 同

吉田 明弘

本川 会長

あずさ部長・広瀬 健さん

本川 会長

担当主事・木川 拓

本川 会長

一 同

本川 会長

—12月第2例会(事務会)—

日時：12月26日(木)

17:00~19:00

会場：ウエルファーム杉並

出席者：石井、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、吉田

<報告事項>

- ①12月のデータを確認した。
- ②12月の月次会計報告を承認した。

- ③1月5日開催の在京会長会に、本川(会長)、篠原(次期会長)、木川(担当主事)が出席する。

<協議事項・例会関係>

- ①1月例会の卓話は、深尾香子さん(東京多摩みなみ)の「茶の湯レッスン」。あずさ部長の公式訪問があり、新年にふさわしく「初釜」の雰囲気を取り入れたいと、例会担当者から提案があり、了承した。

- ②2月例会担当の神谷さんから、卓話を国際担当役員に依頼したいとの提案があり、了承した。

<協議事項・例会以外>

- ①次期あずさ部長の赤羽美栄子

さんから本川さんに、次期ユース事業主査候補の要請があり、本人が受諾した事を了承した。

- ②ブリテン11月号の巻頭言に、神谷さんが書いた記事について討議した。杉並区内に6つの大学があり、各大学のボランティアサークルの学生を、例会に招待する目的を掲げて、神谷さんが折衝することを承認した。(書記・石井元子)

1月以降の行事

- ▲2月9日(土)第2回あずさ部評議会(東京八王子クラブ主催)

会計からのお願い

半期分の会費(27,000円)を例会に持参するか、振り込みで納入をお願いします。

(会計・河原崎和美)

振込先

みずほ銀行方南町支店

普 8027928

東京西ワイズメンズクラブ

卓話者自己紹介

深尾 香子(ふかお・きょうこ)さん

実家にあった茶筌と茶碗は、3歳児の「ままごと遊び」の玩具に過ぎなかったが、大学では縁あって日本文化史を専攻。20歳を契機に家を出され、厳しい師匠に弟子入りするも、茶の湯では食べて行けないと訝しみ、一般企業～公務員となる。

その頃、地元の児童館が予算削減を理由に「子ども茶の湯教室」を閉鎖。路頭に迷う子ども達を救うべく活動を開始。彼らはミッション校等への進学率が高く(理由は卓話にて)、無事社会参加を果たしている。

その後、高齢化に喘ぐ多摩市にてまたも縁有って「介護予防リーダー」となる。約1年の研修の中からシニアに効く茶の湯カリキュラムを考案。3年目を迎え、じわじわと結果が出て来て、手応えを感じている。



ビクター3人が加わったクリスマス例会（高嶋邸）



創建当時の姿に戻った東京駅丸の内駅舎

ー12月クリスマス例会報告ー

例会は納涼例会でもお世話になった高嶋さん邸で19時定刻から始まった。大野貞次さんの司会でヨハネの福音書1:4・5「…光は闇の中で輝いている。闇は光を理解しなかった」が読まれ、クリスマスに相応しい聖句であった。

同盟総主事の神崎清一さんが日・中・韓の国を超えて作られた絵本「平和ってどんなこと？」を紹介された。お互いの国にはそれぞれの思いがあり、この本が出来るまでには様々な問題があったが、こうして出来上がったのはほんとうによろこばしい。美しい色彩で描かれた絵に言葉が添えられる。「爆弾を落とさない」「家をこわさない」「大好きな人といられる」「ごはんが食べられる」「勉強ができる」「意見が言える」「ごめんねが言える」「みんなの前でダンスや歌ができる」「飛行機に乗れる」「信じてても信じなくてもいい」「命はとっても重い」「眠ることが出来る」「神様にお話しできる」「武器はいらない」「爆弾はいらない」…「僕が生まれてよかった」「君と僕が友達になれる」クリスマスに世界の平和を祈りましょう。メリークリスマス!!!と互いに挨拶して終わった。

担当主事の木川拓さんからホテル学校の海外研修が報告。

お待ちかねのディナータイムとなった。藤井寛敏さん(東京江東)の「乾杯」の発声でグラスの音が響き、和風のお煮しめ、唐揚げ、サラダとお漬物がお腹を満たしていった。後ろのテーブルには

2つの大きな桶に、ちらしずしと鮭と野沢菜の混ぜご飯が用意されていた。デザートはシュトレンとブッシュドノエルもどきのクレープの苺ソース添え。桶のご飯と葉月みかんを、お土産にいただいて解散した。(村野絢子)

はしゃぐ“丸の内”ウォッチング

WHOウォーキングのご案内

近年、東京で最も変わった街は、“丸の内”付近ではないでしょうか。オフィス街として、長く重厚で落ち着いた街並みを誇っていましたが、都庁移転に始まり、東京駅の改造、丸ビルの改築など再開発が進み、建物だけでなく雰囲気も賑やか、いささか、はしゃぎ過ぎの感もあります。そんな街の週末を日比谷も含めてひとまわりします。

期 日：1月26日(土)

コース：JR 東京駅ー丸の内OAZOーKITTE(中央郵便局)ー日本工業倶楽部ビルー丸ビルー三菱一号館ー明治生命館ー御幸通りー皇居外苑ー楠木正成像ーDNタワー21(旧第一生命館)ー日比谷公園ー日比谷有楽街ー東京国際フォーラム(都庁跡)ーJR 東京駅

集 合：JR 東京駅北口改札前

9:45

解 散：同上南口改札前 14:30

携行品など：

名札。昼食は状況を見て、現地の食事処で。



YMCA Today

○卒業まで残り3か月となったホテル学校2年生の内定率は98.5%。残り2人を残すのみとなりました。また、2019年度入学試験は現在までに5期を終え、ホテル科118人、ホテル旅館経営学科2人が合格しました。3月まで、1人でも多くのホテリエの卵たちがYMCAでスタートを切れるよう、引き続き、丁寧に対応したいと思います。

○11月15日に「YMCA/YWCA 合同祈祷週礼拝」が、東京YWCA、在日本韓国YMCA、東京YMCAの共催で、東京YWCA カフマンホールを会場に開催され、約60人が集まりました。野田沢牧師に今年のテーマ「ユースエンパワメントが世界を変える～限りない可能性を信じて～」に沿った説教をいただき、席上献金は日本基督教団北海教区の北海道胆振東部地震被災者支援活動のために捧げられました。

○「第20回日本YMCA大会」が11月23日～25日に日本YMCA 同盟東山荘で開催され、全国のYMCAから会員やユースリーダー、職員など計約250人が集い、東京YMCAからも31人が参加。「つどえ東山荘に～すべての“Y”がつながる日～」の全体テーマのもと、学びと交流が持たれました。期間中に全国の永年継続会員や特別功労者への表彰も行われました。

(担当主事 木川 拓)



中野哲学堂の六賢台(右)と四聖堂

新宿落合から中野江古田 WHO12月例会報告

WHO12月例会は15日。西武新宿線新井薬師前に31人が集合。まずは「たきび」の歌の発祥の地へ。作詞者の巽聖歌が住まい能力そばで見た光景を描いた歌です。発表されたのは、昭和16年ですが、その竹垣も道も民家も残っていました。たき火も焼きイモも欲しい北風ぴゅーぴゅーの寒さでしたが、なにか心がほっこりしました。

ここから、新宿の西落合の鉄道模型のカトーショウルームへ北に向かう道です。ビルの1階と2階で精巧な模型列車が立体交差しながら走ります。駅舎から鉄橋、沿線の木々まで揃っています。幼い子がリモコンで列車を操作するのにビックリ。隣接する売場で、価格を見て、またビックリ。

次は、中野の名所の哲学堂公園、世界で唯一といわれる哲学をテーマにした公園です。妙正寺川の北の高台にあります。森も深く地形も変化に富み、この地で育ったわがクラブの鳥越成代さんの遊び場でした。

北風を避けて陽だまりのベンチで昼食。午後、1477年、太田道灌と石神井城主、豊島泰経が激戦を繰り広げた古戦場跡。この敗戦で東京北部に勢力をもった豊島氏は滅亡に向かいました。下剋上に明け暮れる当時の武士たちを想いました。

中野歴史資料館は、展示も分か

りやすく、中野の歴史と生活を見ることが出来ました。

ここからは、寺社巡り。東福寺は徳川家光、吉宗、が鷹狩りで訪れ、徳川家の御膳所が設けられた。このお成りの間は、昭和40年の本堂改築の際に取り壊され、本堂しか再建されなかったそうです。鷹狩りで苦しめられた村民の無念が伝えられていたのかもしれませんが。秩父、坂東、西国の札所、百か所にある薬師如来像の模像のあることから、その名のある明治寺百観音、推定樹齢600年と言われるイチョウのある禅定院、また太田道灌が植えたと伝わる道灌杉の枯れた切り株のある沼袋氷川神社。切り株といってもわずかな木片の痕跡でした。

西武新宿線沼袋駅で午後2時半に解散しました。

ワイズ関係の参加は、石井・吉田(東京西)、中澤・藤江(東京たんぼぼ)、関(石巻広域)でした。(吉田明弘)

凄い仲間たち

松本クラブアジア賞授賞式

鳥越成代

松本クラブのアジア賞については、クラブのメンバーから、その企画の素晴らしさは伺っていました。

今回松本クラブの創立30周年記念式典と第20回アジア賞授賞式に参加し、留学生受賞者の日本語作文を拝見し、直接彼らの日本語での受賞の喜びの声を聞くことが出来ました。

授賞式の挨拶で赤澤睦子会長から、当初信州大学で学ぶアジアからの私費留学生への生活援助のため企画したこと、当時400人近い留学生が在籍し、応募数は多

い時で50人位、最近では応募者が少なくなって、1995年に松本大学、昨年からは丸の内ビジネス専門学校にも参加を呼びかけ、20年間で累計500人以上の応募があったと伺いました。

今回の受賞者は13人で、折々の特別賞を考慮しても、今までに200人以上の学生が恩恵を受けていることになるのです。今回初めて受賞者の作文を拝見し、この賞の素晴らしさを再認識しました。

自国の教育、家庭環境、経済的問題、いくつもの障害を乗り越えて日本に留学し、努力を重ね、それぞれの夢に向かって頑張る若者を支援するという、この松本クラブの素晴らしい活動、会員数11人、平均年齢も東京西クラブとあまり変わらないと思いますので、その継続に、どれほどの努力と犠牲を払っていらっしゃるかと考えさせられました。

入賞者の作文を拝見しながら、日本語のうまさもさることながら、この留学を通して、日本を、世界を、そして自国について、今まで以上に考えを深めている彼らに、心から声援を送りたいと思いました。それを形になさっていらっしゃる松本クラブ、すごいですね。

パーティが終了し、会場を後にする時、お忙しい赤澤会長さんに継続するためのご苦勞を一言と思い、伺いました。「私、(クラブ事業の)文旦たくさん売りましたよ」とのお答え。はっとしました。示唆に富む一言でした。

最後に学生時代この賞に応募した1人の青年が紹介された。現在、松本市内の病院に就職し、家を建て、家族と暮らしている。そして、松本クラブのワイズの仲間になられ、一緒に活動をしているという。会場は大拍手でした。頑張ってください!

当クラブからは大野、高嶋、鳥越、本川さんが参加しました。

☆☆ インタビュー ☆☆ 藤井 寛敏さんに聴く

* * *

藤井寛敏さん（東京江東）は、昨年、名誉あるハリー・M・バラントイン賞を受賞されました。

（吉田明弘）



—バランタイン賞受賞おめでとうございます。

「ありがとうございます。もっとう草の根で貢献している素晴らしい人が沢山おられると思います」
—やはり、国際議会での指導力、とりわけ、国際議会改革を仕上げられたことが評価されたのでしょうか。大変だったと思います。

「2010年以前には、インド地域が21名の国際議員の中で7名を占め、ペーパークラブなどで人数を増やそうとしたりで覇権主義的なところが目に付くようになっていました。そのほか財政の悪化、若い議員の育成の必要性など、私の前の会長のKevinさんの時に、これらの問題を共有し、私が提案、次のFinnさんの時に決定と、トロイカがうまく機能しました。それにタスクフォースの委員のWichianさん、インドからの委員のIsaacさんや書記長の西村隆夫さんのサポートがあればこそ実現したのです。私はこの後、地域の再編成、国際協会をYMCA同盟のような連邦制にしてはとも考えていましたが、これらは頭の中だけで終わりました」
—1987年ごろ藤井さんは地域奉仕事業主任で、TOFの呼びかけに「募金ではなく募心だ」と言われたことが記憶にあります。また

東部部長の時、チャーターした船橋に「船も橋も人と人を結びつける」と書かれたので、この人は文人派なのかと思いました。

「『募心』は、クラブの若手を中心にCS委員会を作った時に誰かから出た言葉だったと思います。『船橋』は覚えていませんが、うまいこと言いましたね」
—藤井さんは、英語は。

「英語は嫌いではありませんでしたが、会話は全く経験がなく、大分勉強しましたが国際では間に合いませんでした。今は、TV電話の会議もあります。国によって英語が違いますし」

—藤井さんは、時にはひやっとすることを言いますが、外国人には人気があると言われています。人柄が理解しやすいのでしょうか。高校時代は応援団長をされていたそうですね。

「中高一貫校で中学の入試前に運動会を見に行き応援団長にすっかり憧れました。夢が実現、全校生徒で応援する現在の筑波大付属との日本で1番古いボートレースの団長も務めました」
—区理事時代の『カモン！ ガッツ！』はすっかり定着しましたね。

「祥子との合作です。区理事の時の主題『生きている喜びを実感しよう』は、ちょっと説明に時間がとられるので『カモン！ ガッツ！』にしました。“元気で行こう”くらいの気持ちでした。そのうち私の話が長くなると『カモン！ ガッツ！』の声がかかるようになりました」

—大学では、テニスをやられた。

「応援団長はイベントの2か月くらい前からですが、それより中1から始めたテニス（軟式）は高3まで続けて学校生活の50%以上の情熱を燃やしました。高2か高3の時だったか校庭の脇のコートでテニスをやっていると同級生から『藤井、早く帰って勉強しろ！』と言われたことを覚えて

います。大学では硬式の同好会でしたが、高校から大学まで常にテニスとクラブのことばかり考えていました。今もやっています。ワイズで国際にかかわるようになってからも海外には常にラケットを携帯し、ワイズメンやその友人とプレーを楽しみました」
—いない人の話ですが、祥子さんはメンバーにならないで、メネットで頑張っておられますね。

「頑張りましたね。なぜメンバーにならないかは聞いてみないと…」

—今の会社は、お父さんが創業された会社ですか。

「ええ、商社などで修業（？）の後、28歳の時に営業兼工員で入りました。今の会社です」
—東京中野に住まわれているのに、なぜ東京江東クラブに。

「会社は江東区にあり、地元については何も知らない私に会社の取引先の専務の柳沢広繁さん（江東クラブ）に地元の人と知り合いになったほうが良いと誘われました。ワイズのことは知りませんでした。ちょっとYMCAという名前に引かれた面があったかとも思います」

—藤井さんは、ワイズに学友を大勢誘われていますね。

「優しい面もある高校、大学の友人を誘いました」

—ワイズの良さは。

「皆良い人ばかりです。でもちょっと元気より真面目が勝っているように思います。皆さん年をとったせいでしょうか」

—ワイズでやりたいことは。

「もう交流を楽しむくらいしかできませんが、強いてあげれば会員増強について陰ながらお手伝いできればと思っています」

—座右銘は。

「『志は千里を走る』、自作です。今年は“虎”も走るといいのですが。本庶佑さんと一緒に願っています」

—ありがとうございました。

旅で出会った人 ④

村野絢子

私立小学校の教師研修会で、立教小学校のモンゴルの大草原を馬で移動する旅を実施している話を聞いた。参加希望の、親子が多く何組かに分けていると聞き、教師のグループも加えて欲しいと翌年モンゴルの旅が始まった。

私学の教師達と友人、立教の親子 20 人ほどで 1995 年 8 月、仙台空港からチャーター便で出発した。ハーブの香りのするウランバートル空港にひやひやの着地だった。バスで以前映画のセットとして建てられたチンギスハーン村に向かった。いくつものゲル(フェルトの宿)の中の大きなメインゲルが集会室兼食堂となっていた。

まず乗馬靴を借りにバスで街に出た。靴は自分の足に合うものを、サイズはばらばら、天井近くまで山積みされた中から自分で探すのである。次にホースマンが現れ、各自に合う馬を選んでくれ背乗り、手綱裁きの指導を受けた。ゲルの周りの草原をぐるぐる歩いて練習する。馬は乗り手が新

米だに見抜き、丘の上のブッシュのある方へ向かう。「だめ！」と綱を引くが聞いてはくれない。遠くでホースマンが「ひゅう！」と口笛を吹くと大人しくなった。

翌日からは毎日隊列を組んで 10~20km 先まで馬の旅、与えられたテントを張った。丘の頂上には石が詰まれ(オボ)その周りを 3 度回って進む。足元の草は白いエーデルワイスと青い花、ヤナギランが美しい。

食事はマトンがメインで、毎日羊の数が減っていく。キッチンもストーブ・薪・おかま・材料をトラックで移動し、荷物も運んでもらう大名旅行の馬の旅、今も目を閉じれば、草原の緑と広い夜空の満天の星が、私を豊かにしてくれる。



お正月は着物三昧

篠原文恵

お正月が来るたび、小学生の頃の思い出がよみがえる。大晦日までは子どもの存在など忘れたかのように街は喧噪に包まれ、それは夜中まで続く。何とか除夜の鐘を聞こうと瞼を必死に開けて我慢をしていますが、百八つの終わりがごろには、睡魔に負けてしまう。

目覚めると世の中は一変！私の目には空気中に金粉が舞い、静寂に包まれ厳かな空間が広がっていて、それは、きっちり三が日続くのだ。家族で改まって年賀の挨拶をし、ご馳走をいただく。

学校で羽織袴の先生から紅白のお饅頭をいただき、急ぎ帰宅して振袖を着せてもらう。何より嬉しいことに、お正月だけはお化粧を施してもらい、友達と隣町にある神社へ出かける。

お年玉をハンドバッグに忍ばせ、門前町の人だかりを歩く。かるたや羽根つきで遊ぶよりも、着飾って 3 日間を過ごすことがとても嬉しかった。

4 日目になると漂っていた金粉が消え、夢から覚めた想いで残りの冬休みを過ごすのだが、ある日とうとう着物の魔力に負けて、母が出かけたスキに友達を呼んで、タンスから母の着物を取り出し、今度はお引きずりでお姫様ごっこが始まる。母が帰る前に着物をキチンとたたみ、何食わぬ顔で出迎えるのだが、どうしたわけか悪戯はばれてしまい、母から叱られる。不思議なことにそれが毎年飽きもせず繰り返された。

結婚して子どもが小さい間は三が日は着物で過ごしていたが、最近ほとんど着る機会がなくなると、途端に特別感が邪魔をして着付けが終わるころにはどっと疲れがでてしまう。

あの金粉が舞っていたお正月の空気は冷たくて、清々しかった。



編集後記

1 月号は、何かと編集作業と相性が悪い年末年始を挟むだけに、毎年発行が遅れがちになります。1 月には、あずさ部長の公式訪問がありますから、なんとか 12 月中に、印刷の目途をつけたいと、計画を前倒しにしました。

そして、毎月、苦しむ巻頭言の執筆を広瀬健部長にお願いしました。すぐに「努力します」と返信が来て、ひと安心。

12 月 1 日に依頼のメールを出して、10 日目に原稿が届きました。

決まるべきところに決めたものが収まると、編集は、弾みがつきます。26 日の事務会当日には事務会記録以外の原稿、写真が揃い、割り付けも終わり、年明けには印刷ができます。

本川悦子会長には、「前半 6 か月を終えて…」とか、「新年に想う」などの心づもりがあったかもしれませぬ。ごめんなさい。

(AY)